

平成26年度 一般会計 予算見積 事業別概要書 (当初)

款	7. 土木費	大事業	2. 幹線道路整備事業
項	2. 道路橋梁費	中事業	
目	3. 道路新設改良費	担当所属	道路建設課

予算種別	補助/単独	事業区分	前年度 当初予算額	増減額			5年間計画額	
臨時	補助	計画	105,336	△5,483	実施計画	第5章	「住環境が整備された住みやすいまちづくり」～都市 基盤整備の充実～	589,056
						基本施策3	道路環境が充実した安全で快適なまちにします	平成23年度 143,500
								平成24年度 151,508
								平成25年度 120,359
						施策1	快適な道路環境に努めます	平成26年度 99,857
								平成27年度 73,832

本年度事業費	(歳入)	(歳出)
本年度当初要求額	33,519	99,853
本年度当初査定額		

財源内訳	国庫支出金						一般財源
本年度当初要求額	33,519						66,334
本年度当初査定額							

<事業に関する説明>

<p>(事業の概要) 新白井田I-42号線、直弥I-35号線、羽鳥I-17号線、岩富6-263号線の設計委託、調査委託、用地購入、交通量調査などです。</p>	<p>(事業の目的) 現状の道路網を踏まえ、アクセス性の向上や渋滞解消などに対応するため、幹線道路の車道拡幅整備や歩道整備を行い、市民生活の安心、安全、快適性の向上を図りながら、国県道、都市計画道路を軸とした道路網の構築に努めます。</p>	<p>(事業の効果) 歩道整備や道路拡幅により道路利用者の安全性や快適性の向上が図られるとともに、幹線道路網を整備することにより交通渋滞の緩和や交通事故削減を図ります。また、アクセス性が向上することで地域間交流が拡大し地域経済の活性化が図られます。</p>
<p>(事業実施上の問題点) 厳しい財政状況下での公共事業予算の確保は、市民ニーズに対応した事業実施において最大の課題であります。また、道路拡幅用地の確保における地権者の協力が得られず、整備計画に影響が出ている路線があります。</p>	<p>(前年度からの見直し点) 限られた予算に対応するため、事業の選択と集中を行い、効率的な施工方法を経済的に検討します。なお、路線全体ではなく部分改良などにより一定の効果が得られるような創意工夫をし、最小の経費で最大の効果が得られるように努めます。</p>	<p>(見積についての特記事項) 市内の各地区を結ぶ道路は、幅員が狭く、各所で交通渋滞が発生していることから、交通渋滞の解消、安全性の確保、利便性の向上が求められます。このことから幹線道路等の整備は必要であります。</p>

節	本年度 当初要求額	前年度 当初予算額	増減額
09	50	36	14
11	284	193	91
13	20,674	3,079	17,595
15	54,500	70,000	△15,500
17	17,995	5,763	12,232
22	6,350	26,250	△19,900

	款	項	目	節	細節	細々節	歳入特定財源科目名称	本年度 要求額	本年度 査定額	前年度 予算額	増減額
特定財源	14	02	03	01	01	00	社会資本整備総合交付金	33,519		35,805	△2,286
	21	01	04	01	01	00	地方道路等整備事業債	0		26,100	△26,100
差引一般財源								66,334		43,431	22,903